

福井県立鯖江高等学校 進路講演会

大学入試の現状と保護者としての対応について

2026年5月16日(土)

株式会社 ナガセ

東進高校事業本部 松井良平

※記載内容は現時点での判明分を反映しております。

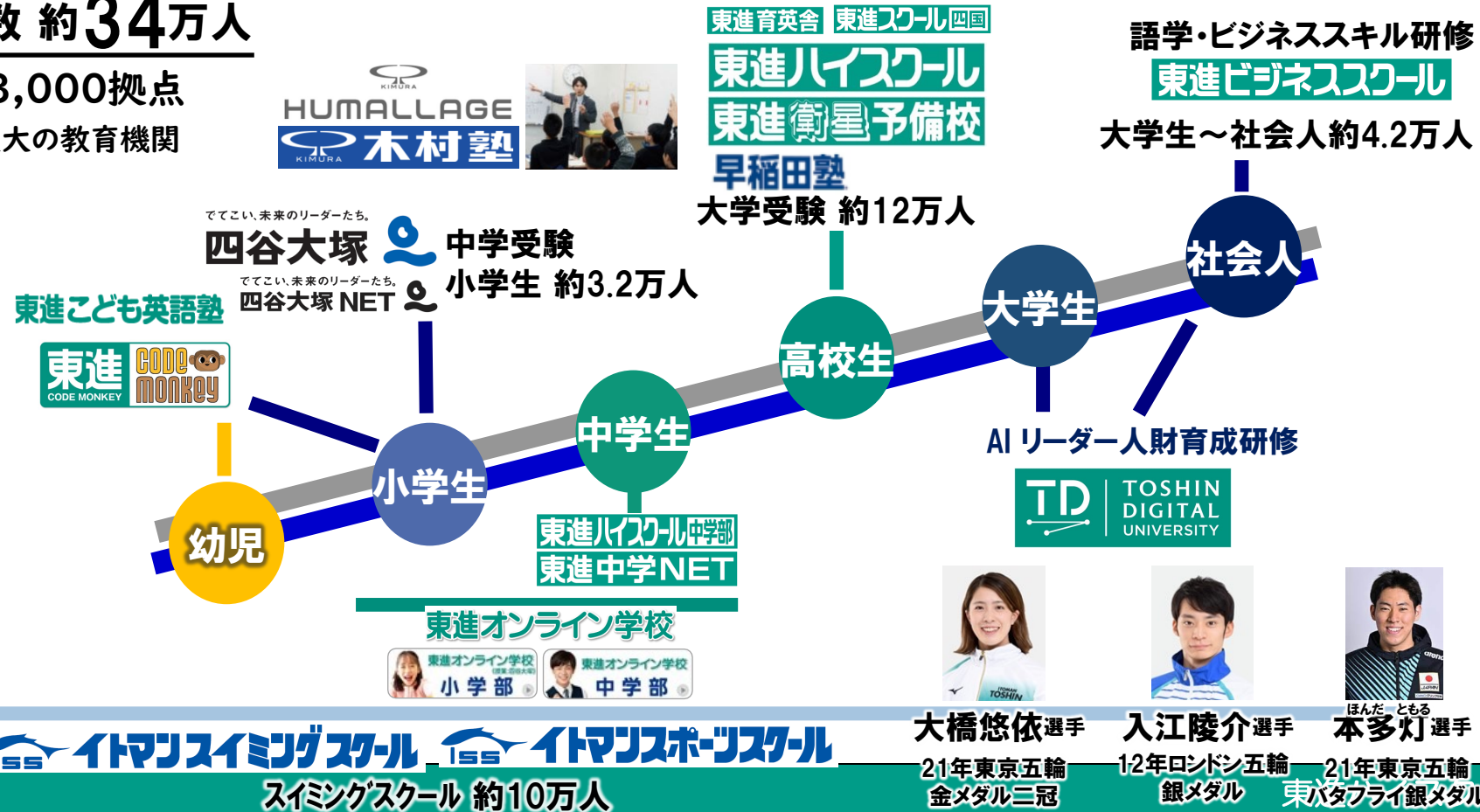
※出典が示されていない資料は主に東進生のデータを基にしています。

東進は、様々な部門で地域と連携して生徒を指導し
日本中から信頼されるネットワークを構築しています

独立自尊の社会・世界に貢献する 人財を育成する

生徒数 約**34**万人

全国3,000拠点
民間最大の教育機関



ISS イマンスイミングスクール ISS イマンスポーツスクール

スイミングスクール 約10万人

大橋悠依選手
21年東京五輪
金メダル三冠

入江陵介選手
12年ロンドン五輪
銀メダル

本多灯選手
21年東京五輪
東バタフライ銀メダラー

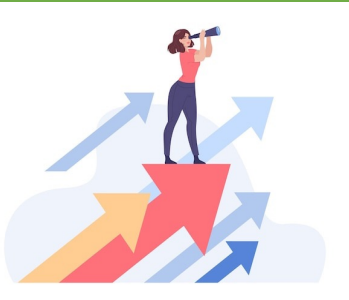
東進衛星予備校

本日も話すること



大学受験を知る

- 大学入試の現状
- 新課程入試について



昨年度の入試状況について

県内の国公立大学の入試状況について



保護者の皆様をお願いしたいこと

前向きなお声かけ

3年生の年間スケジュール

新学期が始まったばかりですが

共通テスト本番まで残り “**244日**”

1学期				2学期					本番
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
球技大会	中間考査	高校総体	期末考査	文化祭	体育祭	中間考査		期末考査	共通テスト

学校行事の一例

学校行事や部活の大会に追われる一方
第一志望校合格に向けて最も重要な時期に入ります

大学全入時代に入るとは言われています・・・
大学を志望する生徒は**選ばなければ**誰でも入れる??

現実

私立大学：600校のうち、定員割れ（入学定員充足率100%未満）
の大学は前年比37校増の320校で全体の53.3%
私立短大：私立短大276校のうち、定員割れの短大は
前年比15校増の254校で全体の92.0%になる

(参考：【日本私立学校振興・共済事業団】令和5（2023）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向)

一方で

都市圏の難易度の高い大学、私立大学には志望者が集中

選ばなければ入学できる大学で本当によいのですか？

何を学び、何を期待するのか・・・そのためには・・・を考える必要
があります

このように大学入試は随分と変化しています

昔 保護者世代（1980～90年前後）

- 高校現役生の現役志願率：約50%
- 大学進学率：約39%
- 大学収容率：約60%
- 大学入試センター試験の開始（1990年～、5教科18科目）
 - ・一部の私立大学が初めて導入（16校）。
- 国公立大学の分離・分割方式の導入（1989年～）
- 国公立大学の連続方式の導入（1987年～1996年）
- AO入試の導入（1990年～）
 - ・慶應義塾大学で初めて実施。国公立大学は2000年から実施。
- 国公立、私立大学ともに学力をはかる一般入試が主流。
- 私立大学の試験日は年1回（一日）、3教科3科目が一般的。

つまり・・・
保護者世代のあたり前は子供世代には通用しないということです！

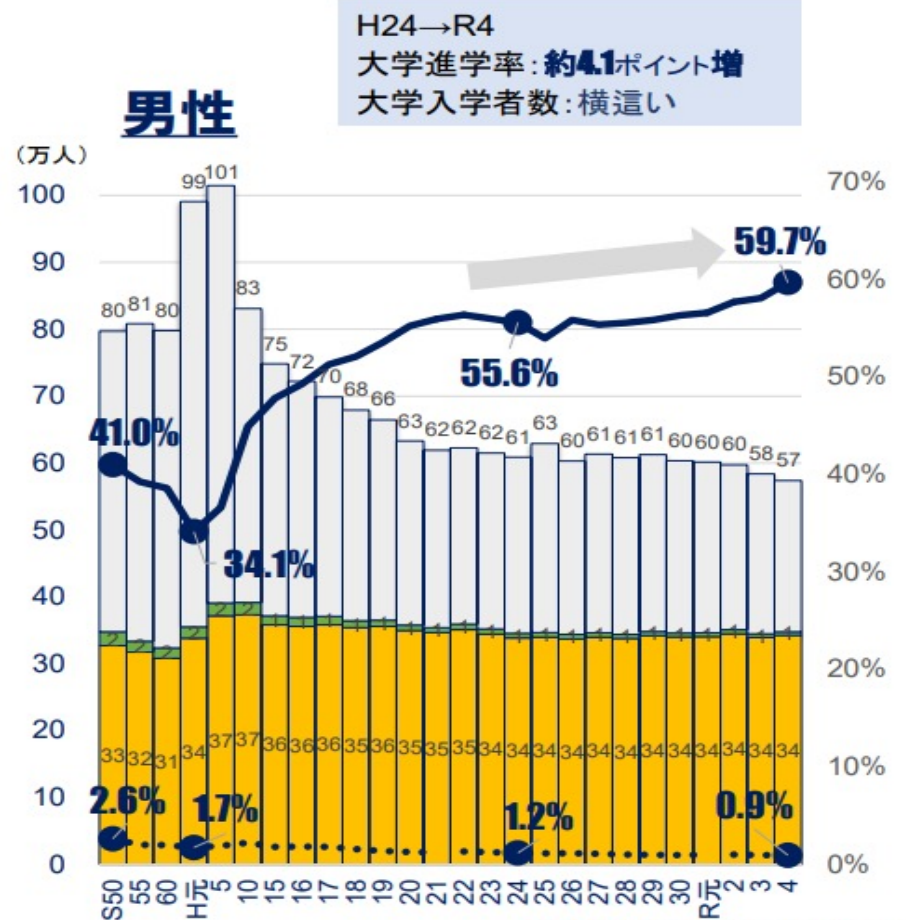
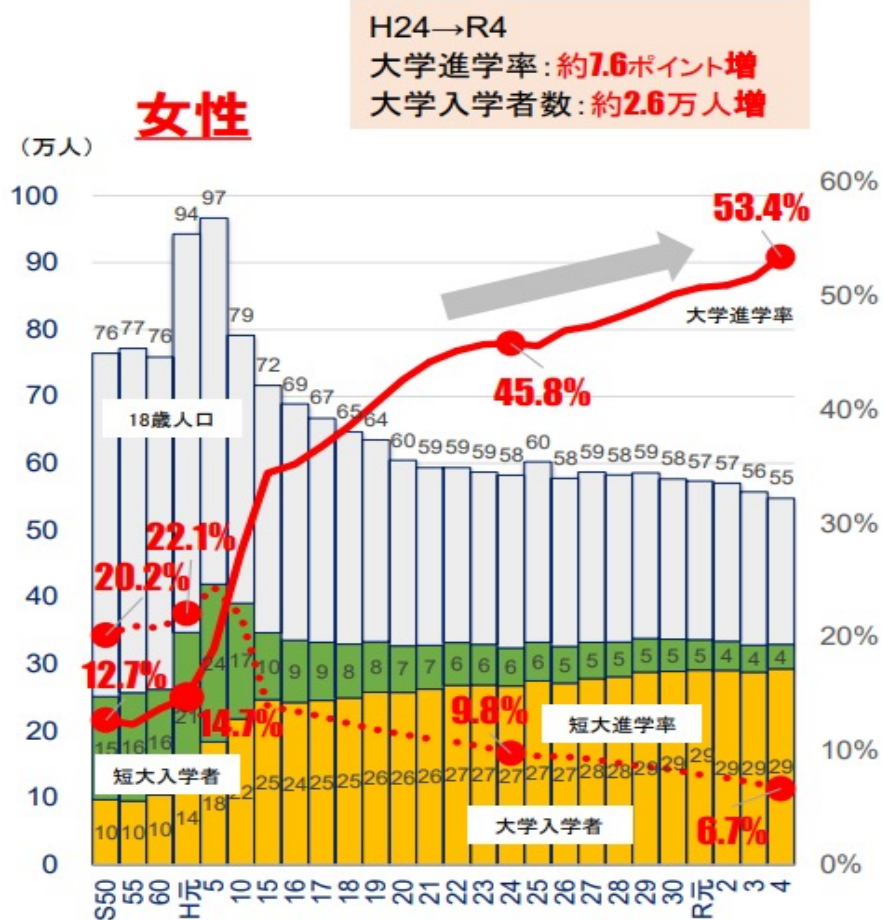
今

高校生世代

- 高校現役生 2023年で6割を超える
- 大学進学率 59.1%
- 大学収容率 98.19%
- 共通テストに情報Ⅰが加わる
- 探求的問題の増加
- 推薦に学力入試が必須
- 私立大学 6割が推薦 年内入試の希望が高まる
- 給付型の奨学金 民間の奨学金

男女別・18歳人口と大学進学率等の推移

- 昭和50年(1975年)と比べて、女性の大学入学者数は約19万人増加、進学率も約40ポイント増加。
- 近年は、男女とも進学率は上昇傾向にあるが女性の上昇幅が大きい。



【出典】文部科学省「学校基本統計」

大学進学率は男女とも50%超え 特に女子の伸びが大きい
 平成元年(1989)→令和4年2022年の推移
 男子 34.1%→59.7% 女子 14.7%→53.4%

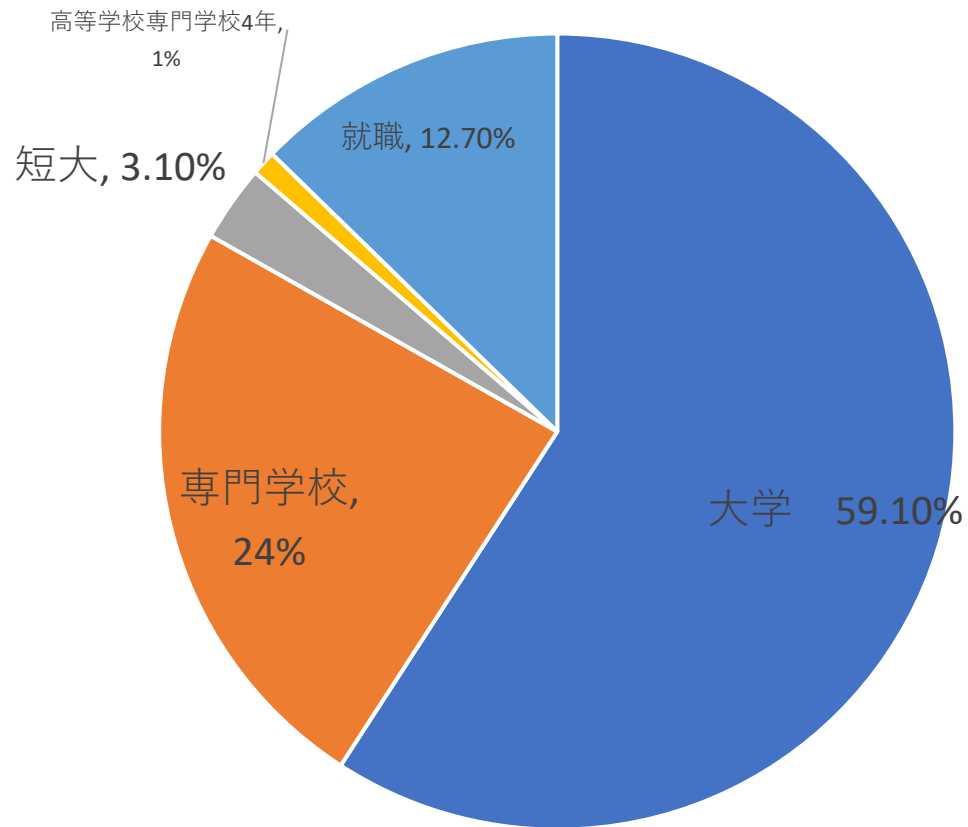


保護者世代と大きく変化

保護者世代と大きく変わった主な点

① 大学・短大進学率が6割を超えました

文部科学省が公表した令和6年度学校基本調査（確定値）



大学+短大

62.3%

大学+短大+専門学校

87.3% 過去最高

何らかの形で大多数が進学をしていることがわかる

国公立・私立別 入学者選抜割合の推移（R6→R7）

国公立大学（国立・公立）：一般選抜主流も「総合型」が急拡大

選抜区分	R6年度	R7年度	増減幅	特記事項
総合型選抜（国立）	5.8%	7.7%	+1.9%	国立の約85%が実施済
総合型選抜（公立）	4.3%	6.1%	+1.8%	地域枠・探究評価が拡大
一般選抜等（国公立平均）	75.8%	73.3%	-2.5%	依然として7割強を占める

私立大学：「年内入試」が全体の6割を超え、主流化が定着

選抜区分	R6年度	R7年度	増減幅	特記事項
総合型選抜	21.3%	22.8%	+1.5%	自己推薦・多面評価の拡大
学校推薦型選抜	39.1%	38.9%	-0.2%	
年内入試合計（私立）	60.4%	61.7%	+1.3%	私立入学者の過半数を突破

国公立・私立別の構造的背景と戦略的視点

市場動向に合わせた受験戦略の再構築

国公立：選抜の「多様化」期

- 一般選抜との併願戦略が鍵
依然として一般選抜が7~8割を占めるが、定員の一部を総合型へシフトさせる動きが全大学で加速。
- 国立大の総合型は「学力+α」
単なる人物評価ではなく、共通テストや探究活動を課す総合型選抜がトレンド。



私立：入試の「早期化」

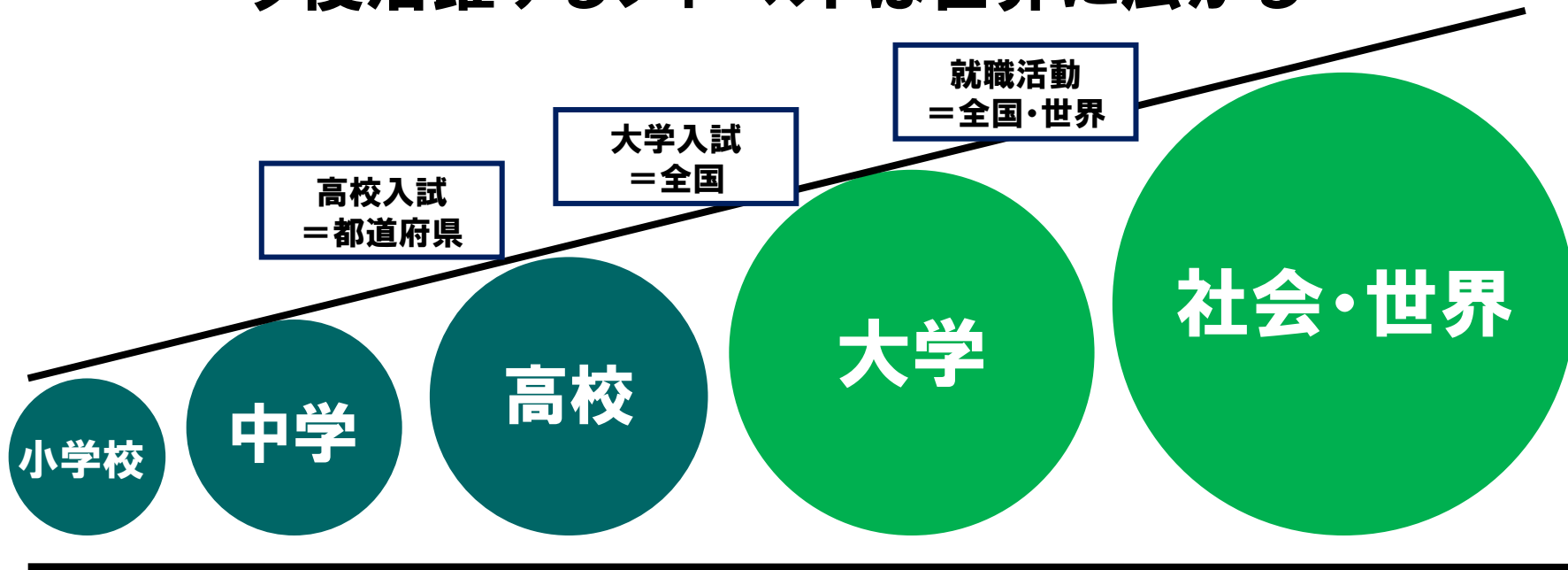
- 6割以上が「年内」に決着
一般選抜(38.3%)はもはやマイノリティ。秋の総合型、冬の推薦で枠を確保する動きが定着。
- 「専願」から「併願」総合型へ
総合型選抜を複数校受験するスタイルが広まり、マッチングの精度が重要視されている。



今、これから進路を決めなければならないお子様をお持ちの保護者の皆様にとって必要なこととは・・・

- ・ 自分の価値観を押し付けることなく・・・
保護者世代の情報は古くなっています。「自分の時代は〇〇だった」はNGワードです。入試そのものが変化しているので勉強方法も昔とは異なります
- ・ お子さんは何を学びたいのか
親が「入学してほしい大学」ではなくお子さんが「入学したい大学」へ！偏差値だけではなく「行ける大学より行きたい大学」へ！

いまおこなっている勉強は「社会で活躍する土台作り」 今後活躍するフィールドは世界に広がる



大学受験は最終目標ではなく中間目標

ぜひ将来の目標のために大学受験に打ち込み
大きく成長してほしい そう考えています

東進は、次のように考えています

受験勉強に本気で取り組むことは「**2つの大きな意義**」がある

1つ目の意義

① 本当に行きたい
大学に合格すること

偏差値や知名度だけで決めない！
将来の志をかなえるための
中間目標を達成する

2つ目の意義

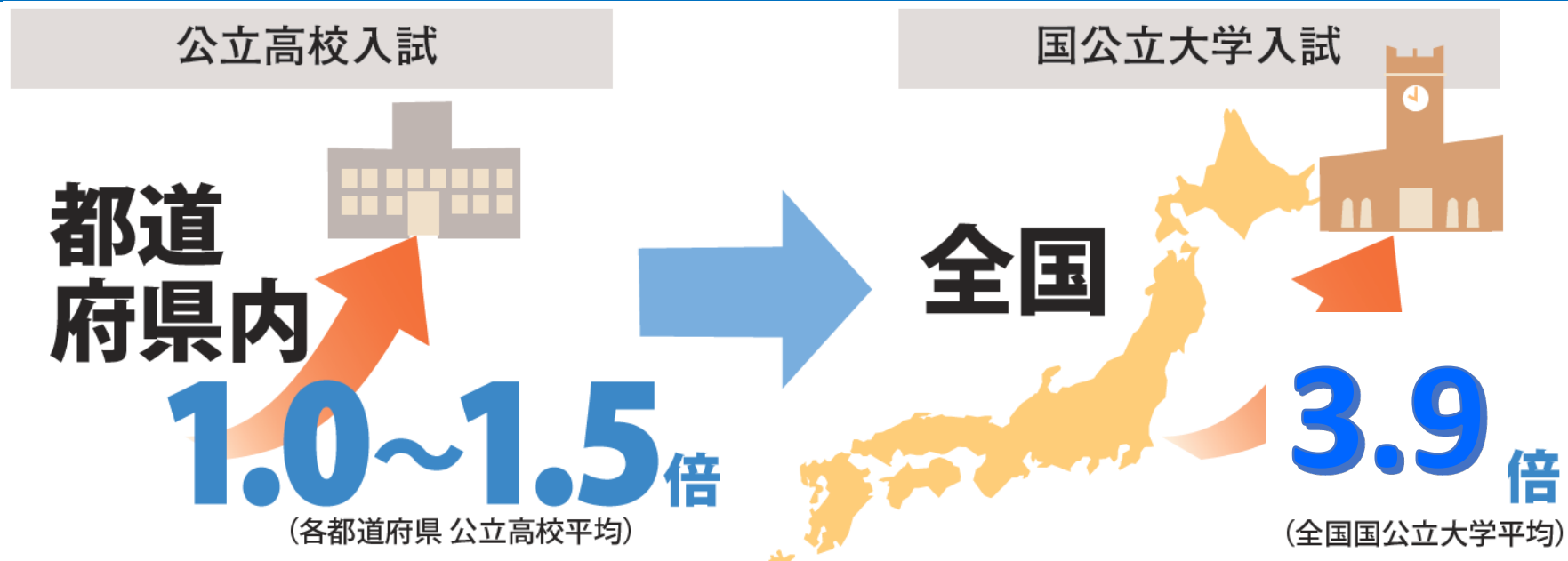
② 受験勉強を通じて
人間として大きく
成長すること

自分の今後の人生を支え続ける
本質的な人間性を築く機会

保護者のみなさんも、きっと同じ想いでいるはず！

①、②を「2つとも」生徒の皆さんに、努力の結果として
勝ち取っていただきたい、そのような想いで今日のお話をします。

大学受験は高校受験より競争率が格段に高い



<2026年度入試一般入試の実質倍率例 ※共通テスト利用除く>

- ① 東京大学 倍率: 2.8倍 ※第一段階選抜を実施しているため
- ② 福井大学(前期) 実質倍率: 2.8倍
- ③ 福井県立大学(地域イノベーション 後期) 志願倍率: 98.8倍
- ④ 金沢大学(前期) 志願倍率: 2.6倍

大学受験の3つの選択（選抜方式）

I. 学校推薦型選抜

- ・出身高等学校長の推薦が必要
⇒学校の成績（高1～高3.1学期）で判定
 - ・公募制推薦、指定校推薦に分かれる
 - ・いずれも第1志望校に限った入試調査書以外に
以下の(1)もしくは(2)の少なくとも1つを必須化
- (1)各大学が実施する評価方法等
(例:小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、
各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等)
- (2)「大学入学共通テスト」が必要な場合もあり

III. 一般選抜

学科試験対策優先

以前は試験の点数しか問われなかったのに対し
新たに調査書と資料（書類）が加わる
ただし、調査書と資料を選抜に利用するか検討
中の大学が大半

II. 総合型選抜

- ・高等学校からの推薦が不要
 - ・総合型選抜では、大学が求める人物像に合った受験生を評価する
 - ・学力検査+受験生自身で書く資料（書類）
(=志望理由書、活動報告書、学修計画書等)
- (1)大学入学共通テストが必要な場合もあり
- (2)各大学独自の評価方法
(小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、
各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等)

様々な種類の選抜方式で
大学進学を決める時代に!

1. 学校推薦型選抜について

- ・出身高等学校長の推薦が必要
⇒学校の成績(高1~高3.1学期)で判定
- ・公募制推薦、指定校推薦に分かれる
- ・いずれも第1志望校に限った入試

- ・調査書以外に
以下の(1)もしくは(2)の少なくとも1つを必須化
- (1)各大学が実施する評価方法等
(例:小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、
各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等)
- (2)「大学入学共通テスト」が必要な場合もあり

Ⅱ. 総合型選抜について(旧AO入試)

- 高等学校からの推薦が不要
- 総合型選抜では、大学が求める人物像に合った受験生を評価する
- 学力検査+受験生自身で書く資料(書類)
(=志望理由書、活動報告書、学修計画書等)
 - (1) 大学入学共通テストが必要な場合もあり
 - (2) 各大学独自の評価方法
(小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、
各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等)

Ⅲ. 一般選抜について

大学合格共通テストと個別学力検査で構成される学力試験

【国公立大】

一次試験・・・大学入学共通テスト

二次試験・・・各大学ごとの個別学力検査

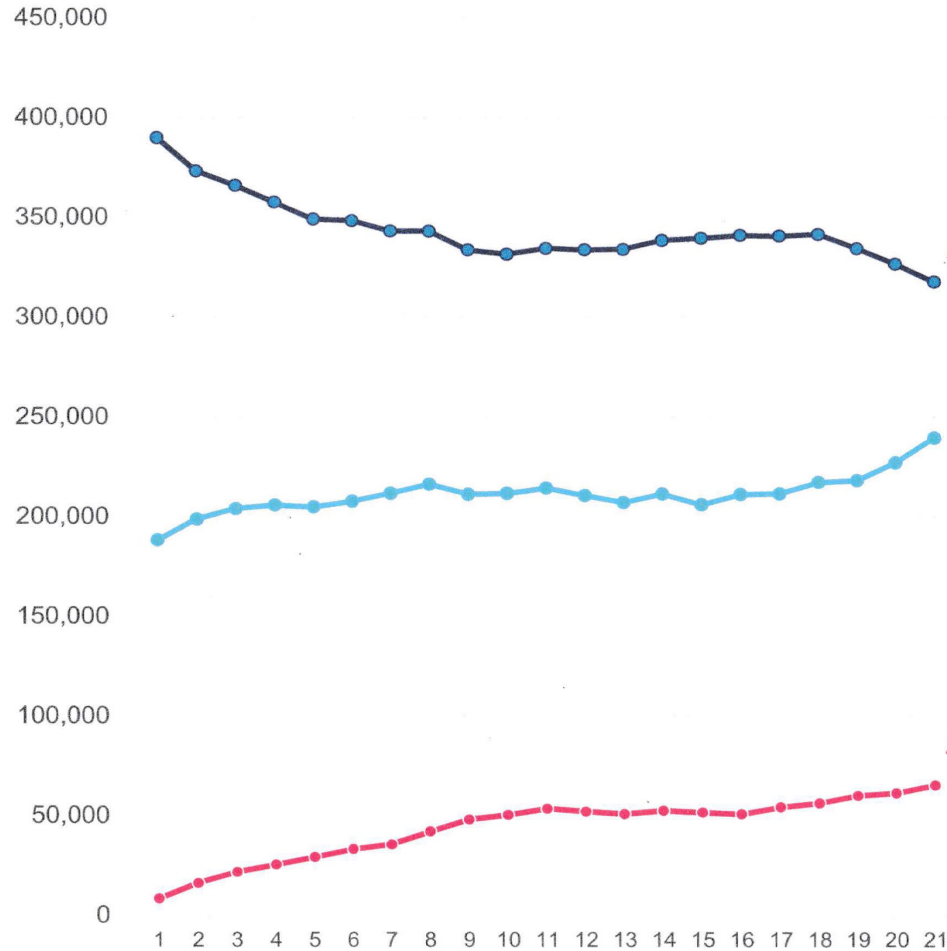
【私立大】

①個別試験のみ②共通テストのみ③個別試験と共通テスト

- ・①が最も募集人数多い
- ・基本は3教科型と2教科以下型
- ・②③を共通テスト利用方式という

入学者選抜の区分別 大学進学者数の推移

入学者選抜の区分別 大学進学者数の推移



一般選抜

調査書の内容, 学力検査, 小論文、
志願者本人の記載する資料等により、
能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する

学校推薦型選抜

出身高等学校長の推薦に基づき、
調査書を主な資料として評価・判定する

総合型選抜

(いわゆるアドミッション・オフィス入試)
詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を
組み合わせることによって、
入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、
目的意識等を総合的に評価・判定する

※学校推薦型選抜、総合型選抜においても、
小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・
科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等、あるいは
共通テストの成績を必ず利用する

大学入試の流れ

図 1 2027 年度 大学入試スケジュール (見込み)

	総合型選抜	学校推薦型選抜			一般選抜				
	国公立大学 私立大学	私立大学	国公立大学			私立大学			個別試験 のみ
			大学入学 共通テスト なし	大学入学 共通テスト あり	大学入学共通 テストと個別学 力試験	大学入学 共通テスト のみ	大学入学共通 テストと個別 試験の併用		
2026年 6月	大学入学共通テスト実施要項・受験案内の公表								
7月	選抜要項の発表								
8月									
9月	出願・選考 (合格発表は 11月以降)			大学入学共通テスト出願内容登録・検定料支払い・ 出願内容確認 (9月中旬～10月上旬)					
10月									
11月		出願・選考 (合格発表は 12月以降)	出願・選考 (合格発表は 12月以降)	出願・選考					
12月						出願	出願		
2027年 1月	(一部の国公立 大学で共通テスト)			大学入学共通テスト (本試験) 2027年1月16日 (土)・17日 (日)				出願	
	選考 ～2月10日	(入学前教育)	(入学前教育)	選考 (合格発表) ～2月10日	個別学力試験 出願 (1月25日～ 2月3日)		出願		
2月					前期日程試験 (2月25日以降)	個別試験	個別試験		
3月	(入学前教育)			(入学前教育)	後期日程試験 (3月12日以降)				

【共通テスト出願は昨年度から オンラインに変わりました】

保護者の責任のもとで各自が出願してもらうこととなります

令和9年度 共通テスト「Web出願」に向けて用意すべき4つのもの

※本資料は「令和8年度」の実績をベースに作成しています。最新のスケジュールは決定次第公表されます。



通信環境・メールアドレス

PC、スマホ、タブレット等のインターネット端末が必要です。

- ✓ 保護者のチェック: 日常的に確認できるアドレスを用意。「迷惑メール設定」の解除・受信許可設定が必須です。



顔写真データ

出願登録時にデジタルデータのアップロードが必要です。

- ✓ 保護者のチェック: スマホ撮影等の要件（サイズ・背景など）は、後日配布される「受験案内」の規定を要確認。



検定料の支払い準備

「クレジットカード」「コンビニ決済」「Pay-easy (ATM/ネットバンキング)」の3種類が利用可能です。

- ✓ 保護者のチェック: どの決済方法を利用するか、ご家庭で事前に決めておく手続きがスムーズです。



受験案内の熟読

手続きのルールブックとなる最重要資料です。

- ✓ 保護者のチェック: 出願手続きは複雑です。必ずお子様と一緒に「受験案内」を精読してください。

いつ・何を？ Web出願の全体タイムライン

※時期は令和8年度の目安です。令和9年度の正確な日程は後日発表されます。



【重要】直前で慌てないための要注意ポイント

過去の共通テスト出願サイトの案内で「特に強調されている」3つの厳守事項です。

「情報入力しただけで出願できたと思い込む」



✕ **誤り**: サイト上で情報の登録を終えたから安心する。

○ **正解**: 検定料等の支払いを完了させないと出願は成立しません。支払期間（例年10月上旬まで）を厳守してください。

「受験票をスマホの画面で見せようとする」



✕ **誤り**: 当日スマホの画面を受付で見せれば入場できると考える。

○ **正解**: 試験当日は「紙に印刷した受験票」の持参が絶対条件です。スマホ等の画面表示では試験場に入場できません。前日までに必ず印刷を済ませてください。

「重要なお知らせが迷惑メールフォルダに消える」



✕ **誤り**: メールを受信設定を確認せず、支払い完了等の重要な通知を見逃す。

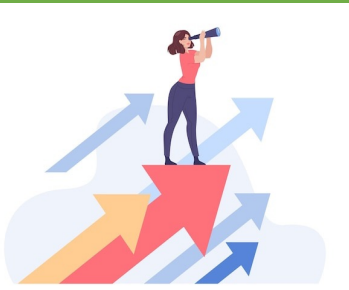
○ **正解**: 以下の3つのドメインからのメールを受信許可（ホワイトリスト化）してください。
@cen.dnc.ac.jp / @p01.mul-pay.com / @gmo-pg.com

本日も話すこと



大学受験を知る

- 大学入試の現状
- 新課程入試について



昨年度の入試状況について

昨年度共通テストについて

県内の国公立大学の入試状況について



保護者の皆様をお願いしたいこと

前向きなお声かけ

2025年～ 新課程共通テストの特徴

最大の変更点 国公立受験者で新たな科目が追加！

「**情報 I**」が試験科目に加わり **6教科8科目 1000点満点**に！

英語

リーディング**探究的な傾向が強まる**

- ・第8問では**立場の異なる5人の意見を基に、立場を決めエッセイ**を下書きする探究型問題が出題！

中間まで含めた10大問→8大問構成に！

数学

・**数学IIBが数学IIBCに**

数学C:ベクトル、平面上の曲線と複素数平面

・**数学A、数学Bの出題範囲が変更**

確率・期待値が出題範囲となり外れ値・仮説検定・期待値が出題

数学IIBCの試験時間60分⇒70分に変更

国語

現代文に「**実用的な文章**」が追加！

- ・外来語の言い換えをテーマとした実用的な文章
グラフの読み取りなどが求められた
- ・問題選択肢が5つから4つに減少

試験時間80分⇒90分に変更

地歴 公民

10科目あった**地理歴史・公民**を再編

- ・「日本史B」、「世界史B」は「歴史総合・日本史探究」、「歴史総合、世界史探究」となり、**日本史・世界史両方の知識を求める問題が出題**

理科

・**教科書改定に伴い使用される用語が変化**

【本試】化学

生成熱の問題が新課程で出題

情報

新たな科目として設置

- ①**試作問題と同一の大問構成**
- ②**プログラミング出題が40点/100点**

探究的な傾向が深まり、各教科でも様々な変更点がありました！

国立大学受験のポイント： 共通テストと二次試験の配点が大学毎に異なっていること

大学	学部	情報配点	共通テスト配点	二次配点	二次試験科目	入試における 共通テスト割合
東京	文科*	11	110	440	英・国・数&地歴から2	20.0%
京都	経済学部文系(一般)*	50	300	550	英・国・数・地歴	35.0%
金沢	人間社会学域 経済	100	700	1050	国・数・英	40.0%
福井	国際地域学部	100	1000	600	英・国・数	62.5%
福井県立	経済学部(経済学科)	0	300	200	英・国	60.0%
横浜国立	経営学部	100	900	450	英・数	66.6%
信州	経法学部	100	900	250	英・国・数(一教科選択)	78.2%

※全て前期日程

二次配点が高い

高度な二次試験の問題勝敗が決まる。受験層は共通テストが高得点なのが普通。早期からの対策が必要。

共通テスト・二次が同等

共通テストの失敗をより難しい二次試験で挽回する事は困難。理屈では二次でも挽回も可能だが実際は困難。もし、共通テストで失敗すると志望校を下げる事が多い。

共通テストの配点が高い

共通テストの得点で勝敗が決まる事が多く、二次試験での逆転は難しい。



「共通テストの問題を解いたのですが
本当に難しくて、驚きました！」



そのように感じた方もいたのではないのでしょうか

なぜ多くの生徒が**難しい**と感じる試験になったのか？

実は...

共通テストを作成している方々も
真剣に日本の未来を想って問題をつくっている

■共通テストの作成方針

このためには、『学力の3要素』(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を育成・評価することが重要であり、「高等学校教育」と、「大学教育」、そして両者を接続する「大学入学者選抜」を一体的に改革し、それぞれの在り方を転換していく必要があります。

大学入学共通テストの特徴

知識があるのは前提として**思考力・理解力・応用力**が問われている

(例)

リーディング

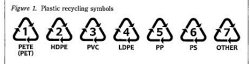
イラスト・グラフ・表 出題数・文字数

	20年 センター試験	21年共通テスト (第1日程)	22年共通テスト
イラスト グラフ・表	1	14	23
文字数	4,328	5,613	6,092

※ You are in a student group preparing a poster for a scientific presentation about the theme "What we should know in order to protect the environment." You have been using the following passage to create the poster.

Recycling Plastic
—What You Need to Know—

The world is full of various types of plastic. Look around, and you will see dozens of plastic items. Look closer and you will notice a recycling symbol on them. In Japan, you might have seen the first symbol in Figure 1 below, but the United States and Europe have a more detailed classification. These recycling symbols look like a triangle of chasing pointers, or sometimes a simple triangle with a number from one to seven inside. This system was started in 1988 by the Society of the Plastics Industry in the US, but since 2008 it has been administered by an international standards organization, ASTM (American Society for Testing and Materials) International. Recycling symbols provide important data about the chemical composition of plastic used and its recyclability. However, a plastic recycling symbol on an object does not always mean that the item can be recycled. It only shows what type of plastic it is made from and that it might be recyclable.



So, what do these numbers mean? One group (numbers 2, 4, and 5) is considered to be safe for the human body, while the other group (numbers 1, 3, 6, and 7) could be problematic in certain circumstances. Let us look at the safer group first.

High-density Polyethylene is a recyclable 2 plastic and is commonly called HDPE. It is corrosion and can be used in the human body for heart

英語リーディング(本試) 第6問

リサイクルシンボルに関して
「タイプ1~7まで」の情報を
正確に把握することが求められる

正解を判定するために「飲食物の容器への使用に適するか」という視点でタイプ1~7について問題文(10カ所程度)を検証する必要がある

(例)

数学ⅠA

融合問題や応用問題も出題

「二次関数」と「図形と計量」の
2単元を横断する出題(第1問[3])

(3) 外接円の半径が3である△ABCを考える。点Aから直線BCに引いた垂線と直線BCとの交点をDとする。

(1) AB=5, AC=4とする。このとき

$$\sin \angle ABC = \frac{\text{ソ}}{\text{タ}}, \quad AD = \frac{\text{チツ}}{\text{テ}}$$

である。

(2) 2辺AB, ACの長さの間に $2AB + AC = 14$ の関係があるとす。

このとき、ABの長さのとり得る値の範囲は $\square \leq AB \leq \square$ であり

$$AD = \frac{\text{ニヌ}}{\text{ネ}} AB^2 + \frac{\text{ノ}}{\text{ハ}} AB$$

と表せるので、ADの長さの最大値は \square ヒである。

「完全順列」に関する出題(大問3)

複数人がそれぞれプレゼントを一つずつ持ち寄り、交換会を開く。ただし、プレゼントはすべて異なるとする。プレゼントの交換は次の手順で行う。

手順
外見が同じ袋を人数分用意し、各袋にプレゼントを一つずつ入れたうえで、各参加者に袋を一つずつつたために配る。各参加者は配られた袋の中のプレゼントを受け取る。

交換の結果、1人でも自分の持参したプレゼントを受け取った場合は、交換をやり直す。そして、全員が自分以外の人の持参したプレゼントを受け取ったところで交換会を終了する。

(1) 2人参加、3人で交換会を開く場合を考える。

(2) 「完全順列」に関する

(2) 4人で交換会を開く場合、1回目の交換で交換会が終了する確率を次の構想に基づいて求めてみよう。

構想
1回目の交換で交換会が終了しないプレゼントの受け取り方の総数を求める。そのために、自分の持参したプレゼントを受け取る人数によって場合分けをする。

1回目の交換で、4人のうち、ちょうど1人が自分の持参したプレゼントを受け取る場合は \square 通りあり、ちょうど2人が自分のプレゼントを受け取る場合は \square 通りある。このように考えていくと、1回目のプレゼントの受け取り方のうち、1回目の交換で交換会が終了しない受け取り方の総数は \square スエである。

したがって、1回目の交換で交換会が終了する確率は $\frac{\text{ソ}}{\text{タ}}$ である。

英語、数学ともにこれからの社会で活躍するために必要な
高い**思考力・理解力・応用力**が求められるようになった

大学入学共通テストの特徴

膨大な情報から必要な情報を探す高い**情報処理能力**が求められる

2日間で約**130個の図表を含む11万文字**の情報を処理する

必要なトレーニング

- ①試験時間合計 約9時間(国公立文系の場合)
高い集中力を維持して**情報処理**を行うトレーニング
- ②図表やデータの内容を早く、**正確に把握し**
自分が求める情報を掴む**トレーニング**
- ③時間内で問題を解ききるため、**科目毎に明確な作戦を立て**
プラン通りに時間を配分し、**解き切るトレーニング**

共通テストで目標得点を取るためには
正しい作戦を立て**何度もトレーニング**することが必要不可欠です

2026年度の国公立大一般選抜志願者は前年比97.8%（419,258人）と減少傾向。 年内入試枠（総合・推薦）の拡大に伴う「一般枠の縮小」が主な要因。

国公立大学 志願状況まとめ表（2026年度 一般選抜）

区分・日程	志願者数(人)	前年比	志願倍率
国立・前期	179,603	100.6%	2.8
国立・後期	115,063	95.0%	9.6
【国立計】	294,666	98.3%	3.9
公立・前期	55,712	97.6%	3.3
公立・中期	31,132	94.8%	12.9
公立・後期	37,748	97.3%	12.4
【公立計】	124,592	96.8%	5.6
【国公立合計】	419,258	97.8%	4.3

志願動向から読み解く3つの重要ポイント

① 入試形態の多様化と「一般枠」の縮小

- 年内入試（総合型・学校推薦型）への移行が加速。募集人員の割合は国立大で22.1%、公立大で34.1%（約3分の1）に到達。
- 一般枠の減少に伴い志願者も減少。特に国立後期日程は前年比95.0%と縮小が顕著。

② 学部系統別の志願動向：文系回帰と理系の揺り戻し

- 【増加・堅調】「外国語（104.7%）」が3年連続増。「法・政治（101.7%）」も2年連続で堅調。
- 【減少・反動】前年大幅増の「総合・情報」は揺り戻し現象で減少（91.0%）。「医学部（92.7%）」は2年連続減。

③ 主要大学のトピックス：大学統合と「隔年現象」

- 大学統合の影響：大阪公立大（旧市大・府大）は統合以来最大の増加（107.6%）。一方、東京科学大（旧東工大・医科歯科大）は減少（87.4%）。
- 極端な倍率変動に注意：多くの主要国公立大・地方大（四国・北陸など）で、前年の反動で志願者が急増減する「隔年現象」が発生。最新倍率の注視が必須。

福井大学 一般選抜（前期日程） 志願状況比較

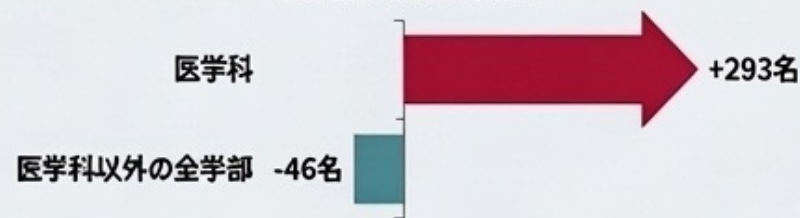
大学全体の志願者数は前年比**126.2%**（+247名）と大幅増。しかし、これは医学科の歴史的な志願者急増（+293名）によるものであり、他学部は堅調～微減の二極化傾向を示す。

学部	学科・課程	募集人員	R7 志願者	R7 倍率	R8 志願者	R8 倍率	志願者 昨対比
教育学部	[初等・中等] 文系型	21	55	2.6	59	2.8	▲ 107.3%
	[初等・中等] 理系型	19	35	1.8	36	1.9	▲ 102.9%
	[初等・中等] 実技型（音楽）	3	5	1.7	2	0.7	▼ 40.0%
	[初等・中等] 実技型（体育）	5	10	2.0	11	2.2	▲ 110.0%
教育学部 計		48	105	2.2	108	2.3	▲ 102.9%
医学部	医学科	55	210	3.8	503	9.1	▲ 239.5%
	看護学科	30	50	1.7	40	1.3	▼ 80.0%
医学部 計		85	260	3.1	543	6.4	▲ 208.8%
工学部	機械・システム工学科	75	104	1.4	136	1.8	▲ 130.8%
	電気電子情報工学科	63	120	1.9	96	1.5	▼ 80.0%
	建築・都市環境工学科	30	103	3.4	84	2.8	▼ 81.6%
	物質・生命化学科	75	142	1.9	126	1.7	▼ 88.7%
	応用物理学科	20	49	2.5	50	2.5	▲ 102.0%
工学部 計		263	518	2.0	492	1.9	▼ 95.0%
国際地域	国際地域学科	30	61	2.0	48	1.6	▼ 78.7%

前期日程 総計	426	944	2.2	1,191	2.8	▲ 126.2%
---------	-----	-----	-----	-------	-----	----------

入試トレンド分析

志願者増減の内訳



1. 医学科の圧倒的牽引と「二極化」

大学全体の志願者は前年から247名増加（126.2%）し、倍率も2.2倍から2.8倍へ上昇しました。

しかし、その実数は**医学部単独での爆発的な増加**（210名→503名 / 前年比239.5%）によるものです。医学部を除いた他学部の合計志願者数は前年比マイナス46名となっており、極端な二極化が発生しています。

2. 工学部内の人気シフト

工学部全体では志願者が微減していますが、学科間で明確に分かれています。前年度倍率が3.4倍と高かった「建築・都市環境」が駆逐される一方で、前年度1.4倍の「機械・システム」に志願者が集中し（+32名、前年比130.8%）、明確な**伸び**（**隔年現象**）が見られます。

3. 安定の教育・落ち着いた見せる国際地域

教育学部は全コース合計で前年比102.9%と非常に安定した推移を見せています。

一方で、国際地域学科は倍率が2.0倍から1.6倍へ下落、看護学科も1.7倍から1.3倍へと下落しており、文系および医療系（非医師）において競争の緩和傾向が確認できます。

福井大学一般選抜（後期日程）志願状況比較

全体志願者は6.7%増加し倍率9.4倍へ上昇。医学部と機械系の人気集中が全体を牽引。

学部・学科	募集定員	R7 志願者	R7 倍率	R8 志願者	R8 倍率	志願者昨対比
教育：学校教育[初等・中等]統合型	13	132	10.2	107	8.2	81.1% (↓)
医学：医学科	25	441	17.6	503	20.1	114.1% (↑)
医学：看護学科	5	64	12.8	70	14.0	109.4% (↑)
工学：機械・システム工学科	30	220	7.3	395	13.2	179.5% (↑↑)
工学：電気電子情報工学科	37	287	7.8	198	5.4	69.0% (↓)
工学：建築・都市環境工学科	17	140	8.2	120	7.1	85.7% (↓)
工学：物質・生命化学科	30	131	4.4	174	5.8	132.8% (↑)
工学：応用物理学科	20	166	8.3	120	6.0	72.3% (↓)
国際地域：国際地域学科	12	86	7.2	91	7.6	105.8% (→)
【後期日程 総合計】	189	1,667	8.8	1,778	9.4	106.7% (↑)

全体トレンド：競争の激化

募集人員（189名）に変動はないものの、全体志願者数は111名増加（昨対比106.7%）。全体の競争倍率は8.8倍から9.4倍へと上昇し、後期日程の難化傾向が明確に表れています。

医学部：20倍超えの極端な集中

医学科は前年の17.6倍から20.1倍へと跳ね上がり、極めて激しい競争環境に。看護学科も増加傾向にあり、医療系への強い安定志向と安全志向が伺えます。

工学部：学科間的大幅な人気シフト

工学部全体では微増ですが、内訳に大きな変動があります。「機械・システム」が昨対179.5%（倍率13.2倍）と爆発的に増加した一方、「電気電子情報」「応用物理」は約3割減。受験生の明確なトレンド移行が見られます。

【福井県立大学 一般選抜 前期日程志願状況比較】

*(※R7=令和7年度/2025年度, R8=令和8年度/2026年度)

学部・学科	R7定員	R7志願	R7倍率	R8定員	R8志願	R8倍率	定員増減	志願増減	倍率増減
地域イノベーション	-	-	-	30	209	7.0	(新設)	(新設)	(新設)
経済	40	127	3.2	35	212	6.1	-5	+85	+2.9
経営	40	178	4.5	35	168	4.8	-5	-10	+0.3
恐竜・地質	15	109	7.3	15	82	5.5	±0	-27	-1.8
生物資源(R7)/A(R8)	14	91	6.5	10	41	4.1	-4	-50	-2.4
生物資源B	-	-	-	4	27	6.8	(新設)	(新設)	(新設)
創造農	11	41	3.7	11	16	1.5	±0	-25	-2.2
海洋生物資源	25	108	4.3	25	90	3.6	±0	-18	-0.7
先端増養殖科学	10	29	2.9	10	63	6.3	±0	+34	+3.4
看護	25	99	4.0	25	51	2.0	±0	-48	-2.0
社会福祉	15	60	4.0	15	40	2.7	±0	-20	-1.3
【前期計】	195	842	4.3	215	999	4.6	+20	+157	+0.3

全体概況：底堅い人気

定員枠の拡大 (+20名) に対し、志願者が大きく増加 (+157名)。全体倍率は4.3倍から4.6倍へ微増し、大学全体として堅調な人気を示しています。

激戦区：新設学科と経済の躍進

新設「地域イノベーション」が初年度か倍率7.0倍のロケットスタート。「経済」は定員削減 (-5名) のなか志願者が急増し、倍率が約2倍 (3.2→6.1) へと急騰しました。

狙い目：看護福祉と生物資源

「看護福祉学部」は両学科とも志願者が大幅減。特に「看護」は倍率2.0倍まで下がり受験生に有利な環境に。生物資源系 (創造農は1.5倍) も全体的に倍率が緩和傾向です。

【福井県立大学 一般選抜 後期日程志願状況比較】

学部・学科	R7定員	R7志願	R7倍率	R8定員	R8志願	R8倍率	定員増減	志願増減	倍率増減
地域イノベーション	-	-	-	5	494	98.8	(新設)	(新設)	(新設)
経済	35	236	6.7	20	387	19.4	-15	+151	+12.7
経営	35	236	6.7	20	182	9.1	-15	-54	+2.4
恐竜・地質	3	82	27.3	3	50	16.7	±0	-32	-10.6
生物資源	17	265	15.6	17	137	8.1	±0	-128	-7.5
生物資源	5	70	14.0	5	27	5.4	±0	-43	-8.6
創造農	5	70	14.0	5	27	5.4	±0	-43	-8.6
海洋生物資源	10	133	13.3	10	127	12.7	±0	-6	-0.6
先端増養殖科学	6	44	7.3	6	66	11.0	±0	+22	+3.7
看護	5	133	26.6	5	64	12.8	±0	-69	-13.8
社会福祉	5	65	13.0	5	50	10.0	±0	-15	-3.0
【後期計】	121	1,264	10.4	96	1,584	16.5	-25	+320	+6.1

全体概況：異常な激戦化

後期全体の定員が25名削減された一方、志願者は320名増加。結果として全体倍率は10.4倍から「16.5倍」へと跳ね上がり、極めて厳しい入試環境となりました。

記録的数値：新設学科への超偏重

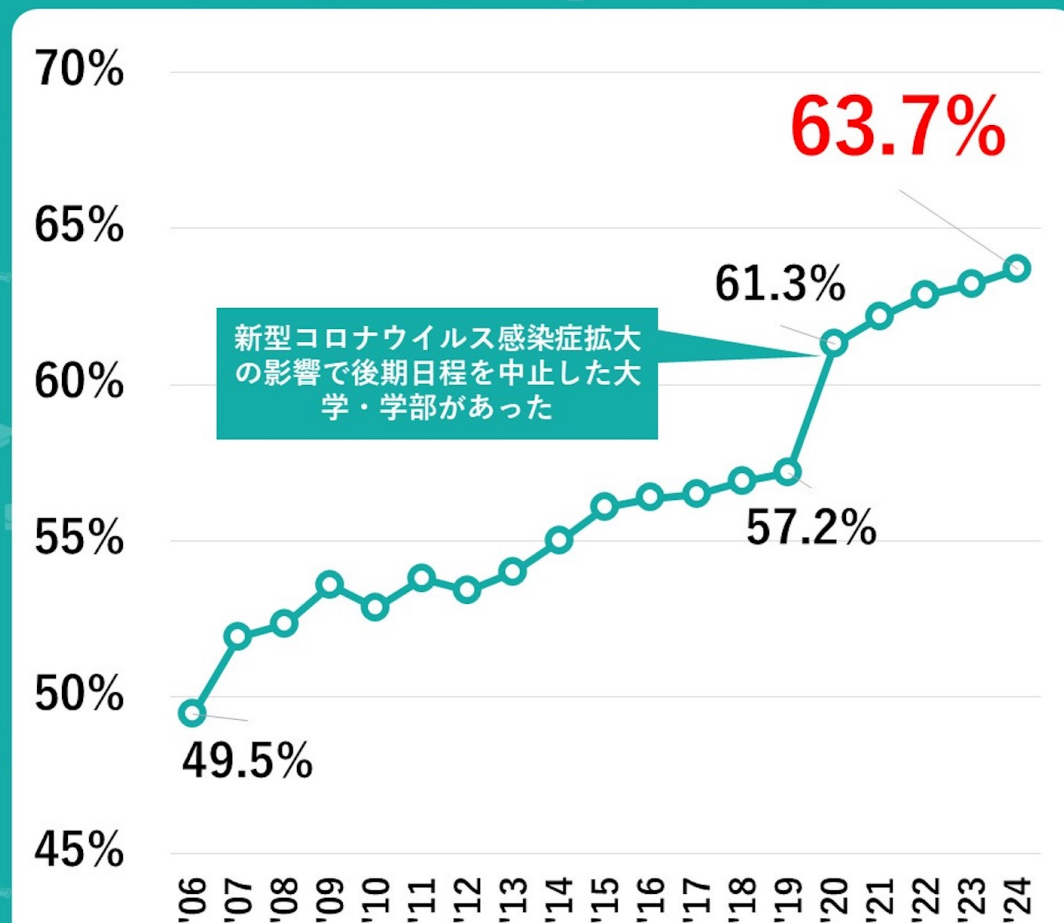
「地域イノベーション」は定員5名に対して494名が殺到し、98.8倍という記録的な倍率を叩き出しました。これが後期全体の数字を大きく押し上げています。

ボトルネック：経済学科の劇的難化

「経済」は定員がほぼ半減（35→20）したにも関わらず、志願者が151名増加。倍率が6.7倍から19.4倍へと約3倍に膨れ上がり、難易度が劇的に上昇しています。

中後期日程は狙い目??

国公立大学 後期日程の欠席率の推移



※文部科学省「国公立大学入学者選抜 後期個別学力検査等第1日目第1時限目の受験状況」をもとに作成。

2024年度入試の欠席率は
63.7%

中期日程を実施する主な大学

大阪公立大学
公立小松大学
高崎経済大学
兵庫県立大学
都留文科大

依然として高倍率の学科等はあるが、全体的には競争率は緩和
後期日程まで諦めずに受験を続ける受験生が報われやすい環境

令和8年度 一般選抜（後期日程）入試状況分析

1 「見かけの数字」に惑わされない出願戦略：
後期日程は出願先確保（滑り止め）として利用されることが多く、医学部を除く全学部で志願倍率が5～14倍に達するものの、実際の競争率は劇的に低下する。

2 前期合格者等の大量辞退による受験者の減少：
志願者の半数以上（学科によっては7割以上）が当日の試験を欠席しており、これが「実質倍率」を1～3倍台へと大きく押し下げる要因となっている。

3 実質的な最激戦区は医学科：
医学科は例外的に実質倍率が13.9倍と極めて高く、後期日程においても非常に厳しい競争環境が維持されている。

学部・学科名	後期定員	志願者数	実受験者数	倍率昨対比*	志願倍率 (A)	実質倍率 (B)	ギャップ可視化 (A) → (B)
1 教育学部（学校教育）	13名	107名	36名	-	8.2倍	2.8倍	←...● 大幅減
2 医学部 医学科	25名	503名	347名	-	20.1倍	13.9倍	←.....● 高止まり
3 医学部 看護学科	5名	70名	15名	-	14.0倍	3.0倍	←...● 激減
4 工学部 機械・システム	30名	395名	119名	-	13.2倍	2.6倍	←...● 激減
5 工学部 電気電子情報	37名	198名	61名	-	5.4倍	1.4倍	● 低倍率化
6 工学部 建築・都市環境	17名	120名	47名	-	7.1倍	2.4倍	←...● 大幅減
7 工学部 物質・生命化学	30名	174名	55名	-	5.8倍	1.8倍	● 低倍率化
8 工学部 応用物理	20名	120名	39名	-	6.0倍	1.5倍	● 低倍率化
9 国際地域学部 国際地域	12名	91名	24名	-	7.6倍	1.8倍	● 低倍率化

算出根拠：【志願倍率】= 志願者数 ÷ 後期日程定員 【実質倍率】= 実受験者数 ÷ 合格者数

対象データ：令和8年度 福井大学入学状況（一般選抜・後期日程のみ抽出）

*倍率昨対比について：掲載された公式資料は令和8年度の単年データのみのため、昨対比は「-（該当データなし）」として記載。

※教育学部は「初等教育」「中等教育」の後期日程を統合し、学部合併として算出。

1.0 5.0 10.0 15.0 20.0 25.0

令和8年度 福井県立大学 一般選抜【後期日程】入試実態分析

「見かけの志願倍率」と「実質倍率」の大きな乖離から読み解く真の競争環境

後期日程は前期日程の合格・辞退者が多数発生するため、志願倍率（出願時の競争率）と実質倍率（実際の受験・合格に基づく競争率）の間に平均して約3分の1から4分の1にまで縮小する過激な乖離が存在します。令和8年度は特に新設・少人数枠の学科で極端な倍率の乱高下が見られました。

学部・学科	募集定員	志願者数	実受験者数	志願倍率（昨対比）	【実態】志願倍率	実質的な難易度低下
経済学部 経済学科	20名	387名	118名	19.4倍 (+12.7)	5.9倍	大幅下落（歩留まり低）
経済学部 経営学科	20名	182名	62名	9.1倍 (+2.4)	3.1倍	下落
生物資源学部 生物資源学科	17名	137名	31名	8.1倍 (-7.5)	1.8倍	大幅下落
生物資源学部 創造農学科	5名	27名	4名	5.4倍 (-8.6)	1.0倍	全入状態
海洋生物資源学部 海洋生物資源学科	10名	127名	48名	12.7倍 (-0.6)	4.8倍	下落
海洋生物資源学部 先端増養殖科学科	6名	66名	26名	11.0倍 (+3.7)	4.3倍	下落
看護福祉学部 看護学科	5名	64名	11名	12.8倍 (-13.8)	2.2倍	大幅下落
看護福祉学部 社会福祉学科	5名	50名	23名	10.0倍 (-3.0)	4.6倍	下落
恐竜学部 恐竜・地質学科	3名	50名	10名	16.7倍 (-10.6)	3.3倍	大幅下落
地域政策学部 地域イノベーション学科	5名	494名	176名	98.8倍 (-)	25.1倍	異常値・最激戦



地域イノベーション学科の「異常値」と実態

志願倍率「98.8倍」という衝撃的な数値ですが、定員5名に494名が殺到した結果です。実際の受験者は176名に絞られ、合格者も7名出したため、実質倍率は「25.1倍」に着地。それでも学内ダントツの最難関です。



高倍率からの「反動減」による全入化

昨年度に極端な高倍率だった「看護学科（昨対 -13.8pt）」「恐竜・地質学科（-10.6pt）」などは報連され志願者が激減。特に創造農学科は受験者・合格者とも4名の実質倍率「1.0倍」となり、志願時（5.4倍）からは想像できない全入状態でした。



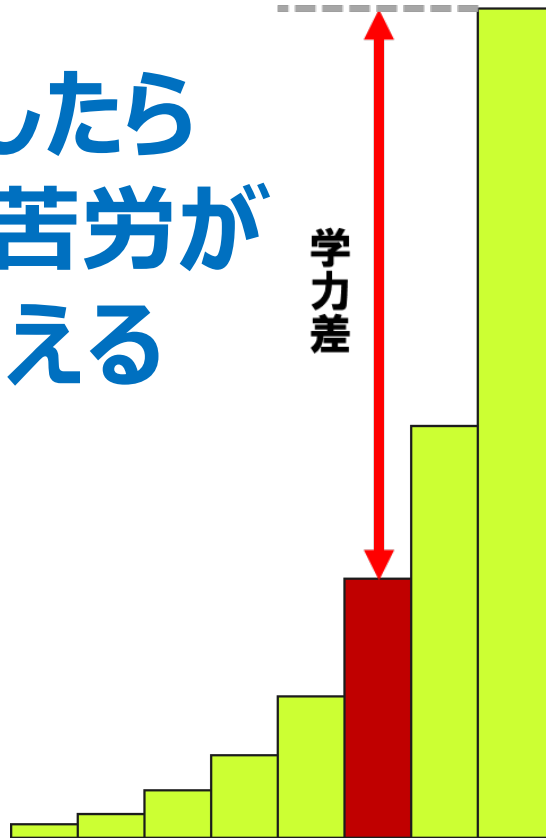
経済学科の「見かけ倒し」現象

経済学科は志願倍率が前年から12.7pt急増し19.4倍となりましたが、当日の受験者は118名（志願者の約30%）まで激減。他大学（国立前期や難関私大）へ合格して抜けた層が非常に厚く、顔面通りの難易度ではありません。

早く進学先を決めて楽になりたい

例) 東京理科大学に総合型入試で入学した生徒
1年生の間に**50%が退学**⇒学力的についていけない

楽しいたら
後で苦勞が
増える



学校推薦型選抜・総合型選抜で合格

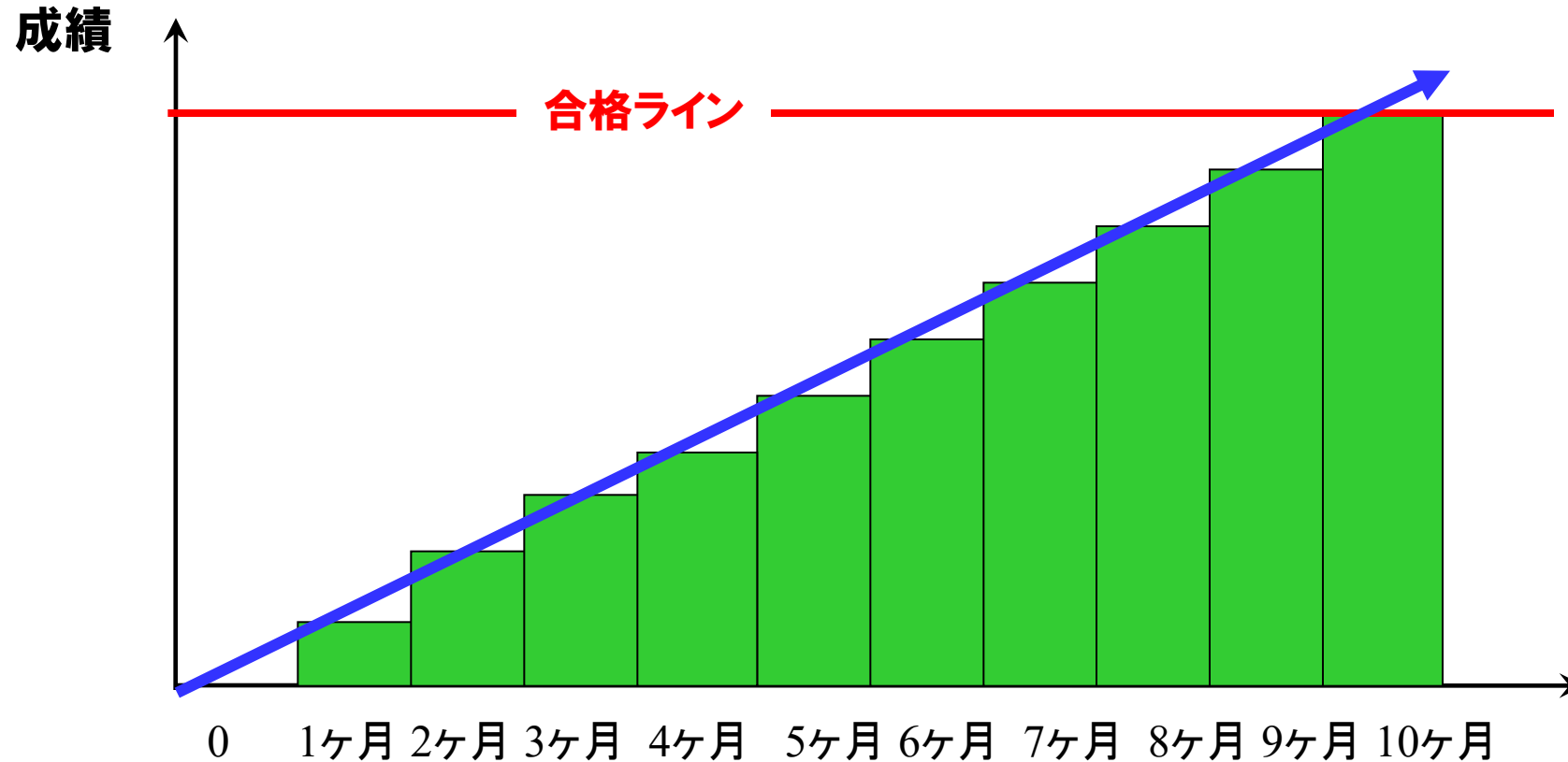
もしも、この時点で勉強の
ペースを緩めてしまったら...

受験まで最も伸びる時期に「勉強をやめる」
＝絶好の成長機会を放棄することになる

推薦で進学すると、進学した大学・学部・クラ
スの中で最も学力が低い層となってしまう
苦勞しているのが現実

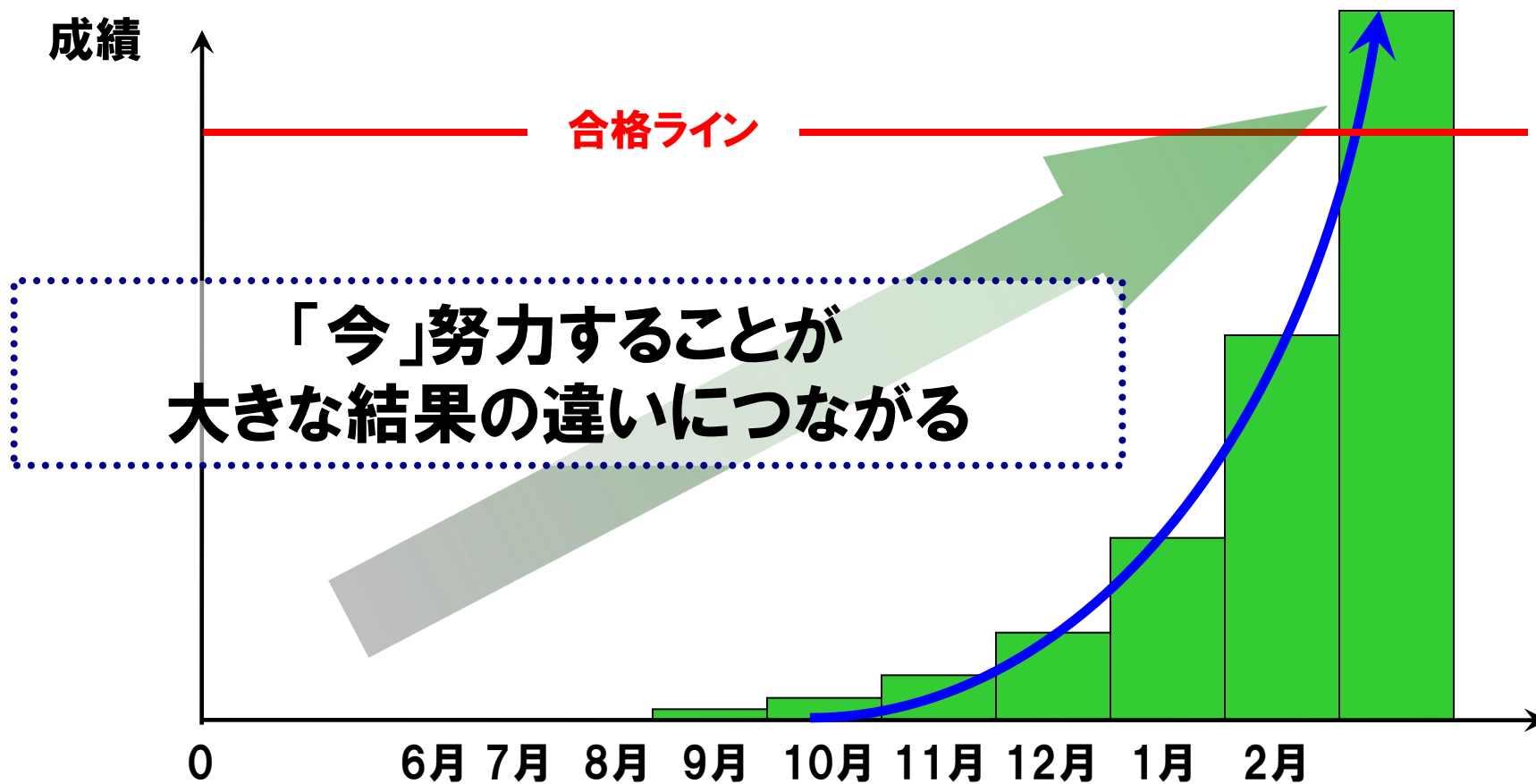
学力の差は時間の差

学習量と学力の伸びの関係は・・・



このような伸び方ではない

勉強の効果はある段階になって突然現れる



「今から」「本気で」受験勉強に取り組む

本日本話すること



大学受験を知る

- 大学入試の現状
- 新課程入試について



昨年度の共通テストと入試状況について

昨年度共通テストについて

県内の国公立大学の入試状況について



保護者の皆様をお願いしたいこと

- 気になるお金の話
- 前向きなお声かけ

気になるお金の話

～大学進学にかかる費用のリアルと目安～

進学費用は「3つのタイミング」で発生します

進学費用期間



フェーズ1

受験時 (受験料)



フェーズ2

入学手続き時 (入学金)



フェーズ3

入学後 (授業料・設備費等)

1. 受験料の目安（1校/1回あたり）

【大学入学共通テスト】

3教科以上の受験 18,000円

2教科以下の受験 12,000円

成績開示希望 +300円（教科数に関係なく）

【国公立大学】

二次試験 平均 17,000円

【私立大学】

一般選抜 平均 35,000円

共通テスト利用入試 平均 15,000円

願書購入代 平均 1,000円

【専門学校】

相場 10,000円～30,000円

（※学校により大きく異なります）

パターン別・受験料シミュレーション

【国公立(前期・後期)のみ】

共通テスト …… 18,000円
前期 …………… 17,000円
後期 …………… 17,000円

合計: 52,000円

【第一志望 国公立 + 私立滑り止め】

国公立受験料 …… 52,000円
私立滑り止め(1校) 35,000円

合計: 87,000円

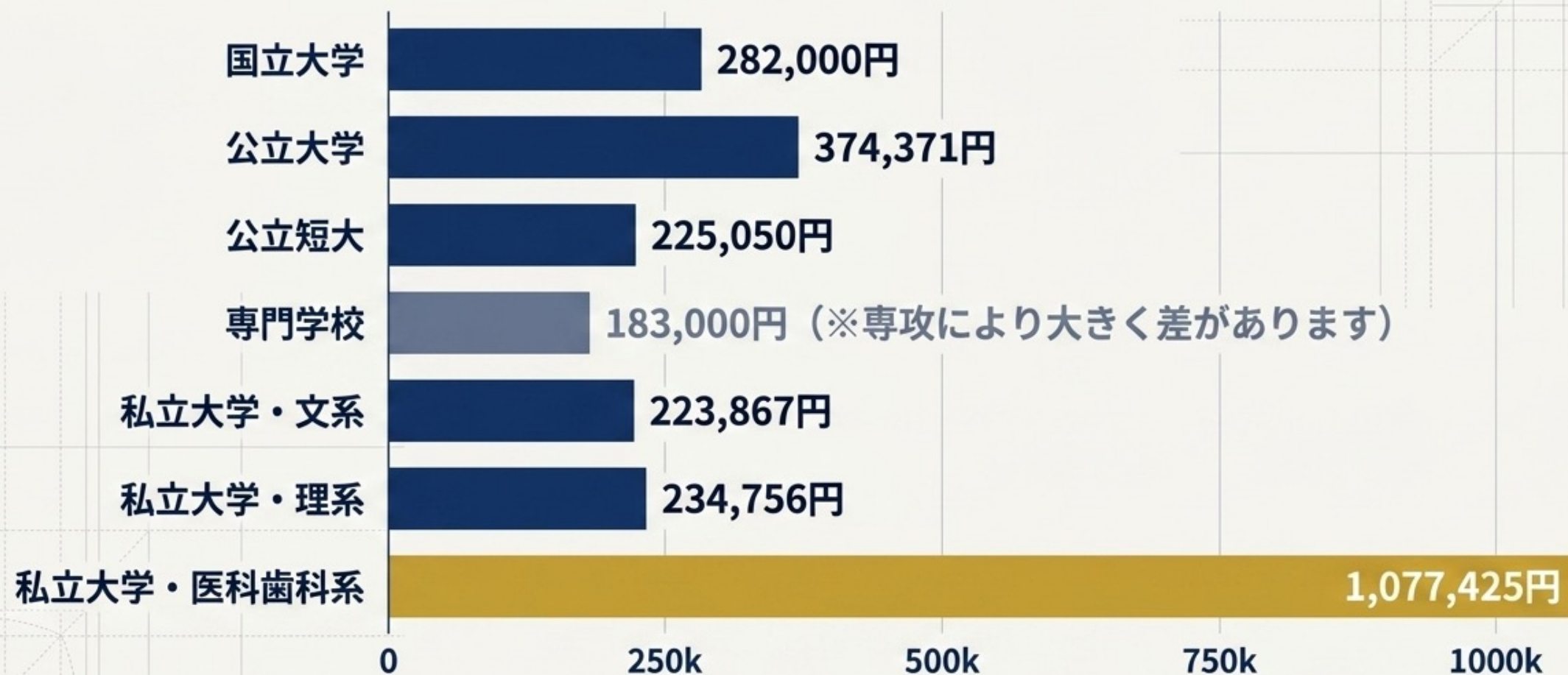
【私立大学 一般選抜のみ】

私立一般(平均3~4校)
… 35,000円 × 3~4

**合計: 105,000円
~ 140,000円**

受験する校数が増えるほど、当然ながら出費は大きくなります。

2. 入学金の目安（学校別）



※出典：令和5年度 私立大学入学者に係る初年度学生納付金等平均額の調査 / 文部科学省「国公立大学の授業料等の推移」

3. 授業料の目安と「その他の費用」

項目	授業料の目安	その他の費用
国立大学	535,800円	授業料に含まれる
公立大学	536,191円	授業料に含まれる
公立短大	377,357円	授業料に含まれる
私立大学・文系	827,135円	設備費等25万～30万程度
私立大学・理系	1,162,738円	設備費等30万～45万程度
私立大学・医科歯科系	2,863,713円	設備費等170万～330万程度

※文部科学省HPより

私立大学は「設備費・実習費」が別途かかります

国公立大学は基本授業料に含まれますが、私立大学に進学した場合はベースとなる授業料の上に設備費等が上乗せされます。

約53.5万円
(その他費用込み)



国公立大学

設備費等
約25~30万



私立文系

年間
約100万円
前後

設備費等
約30~45万



私立理系

年間
約130万~
150万円程度

進学費用の全体像を把握し、早めの準備を



【受験時】

出願数に応じたまとまった費用（約5万～14万円）が発生します。



【入学手続き時】

合格後すぐ、入学金（約22万～37万円）の納入準備が必要です。



【入学後】

特に私立大学の場合、「授業料+設備費」の合計額（年間約100万～150万円）を把握しておくことが重要です。



大学入試・新生活の リアルな事情

受験から一人暮らしスタートまでにかかる全費用シミュレーションやアドバイス

フェーズ1：合格を勝ち取るまでの費用

386,000円



内訳詳細



受験料 (3.5万円 × 4学部)140,000円



宿泊費 (2泊 × 2回)36,000円



入学金 (納付金)200,000円



交通費・その他諸経費10,000円

Point: 受験料以外に「宿泊・移動費」や「入学金（滑り止め校含む）」の確保が重要になります。

フェーズ2：入学・新生活準備の費用

カテゴリー	詳細内容	概算費用
大学・住居関連	初年度学費（年間一括）、マンション契約、生協加入金	1,520,000円
生活インフラ	家電（冷蔵庫・洗濯機等）、家具、引越し交通費	160,000円
学習・その他	PC、運転免許取得費用	445,000円
合計	合格決定後の追加支払い総額	2,125,000円

支出のピークに関する留意点

ⓘ 内に学費・住居で約190万円、さらに3月までに家具・PC等で約60万円が必要です。入学初年度は「総額で約250万円以上」の現金移動が発生する計算となります。

事前に準備対策をしておいたほうが良いこと



宿泊

落とし穴: 推薦や国公立の一般試験時、ホテル（特に観光地）は価格が高騰し、満室で予約が取れないケースが多発します。

対策: ホテル半年前から予約できます。まずは受験予定校などの地域のホテルを予約することをおすすめします。ほとんどのホテルが前日まではキャンセル料金がかかりません。



住居

落とし穴: 3月の後期日程後はスケジュールが極めてタイト。学生マンションは入れ替えと重なり、「入学式当日にしか入居できない」場合が多々あります。

対策: 「合格前予約」制度を活用し、入居可能日を逆算して引越計画を立てる。

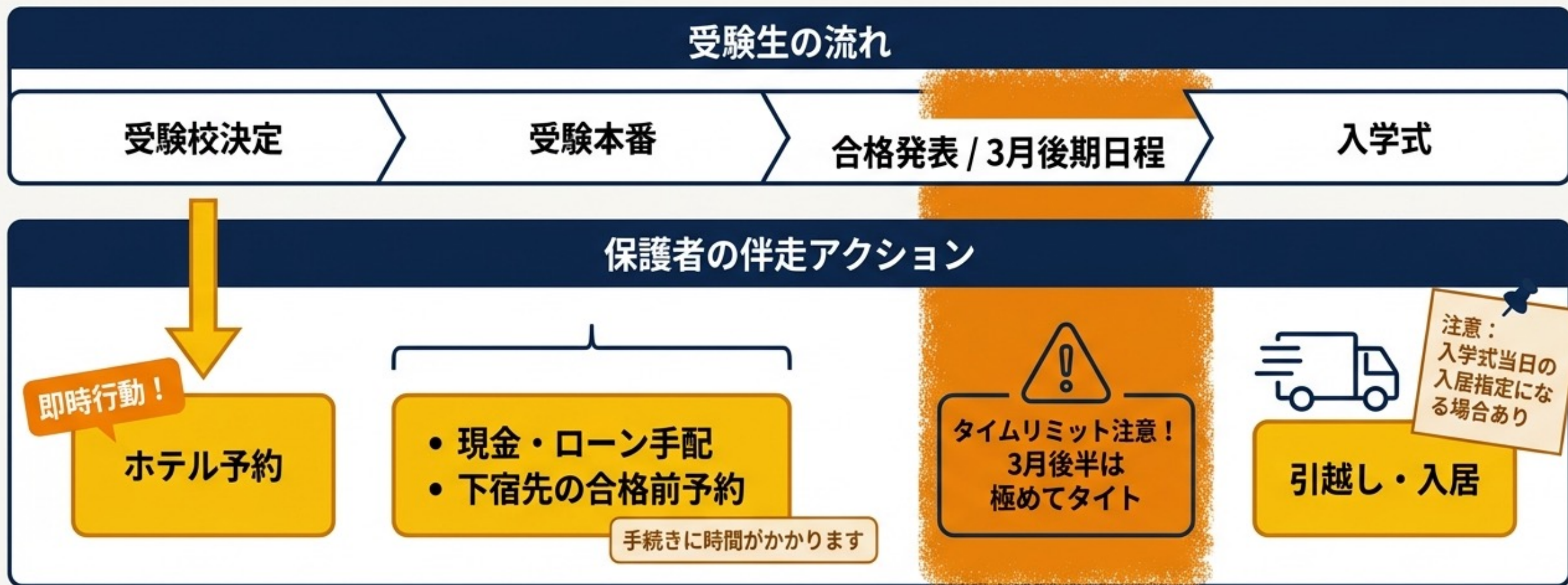


お金

落とし穴: 受験料はクレジットカードが使えても、入学金や授業料は「銀行振込のみ」の大学が多数。教育ローンは審査に長期間を要します。

対策: まとまった「現金」の用意と、教育ローンの手続きは最優先で動く。

合格からではなく「受験校決定」から 動く裏側スケジュールマップ



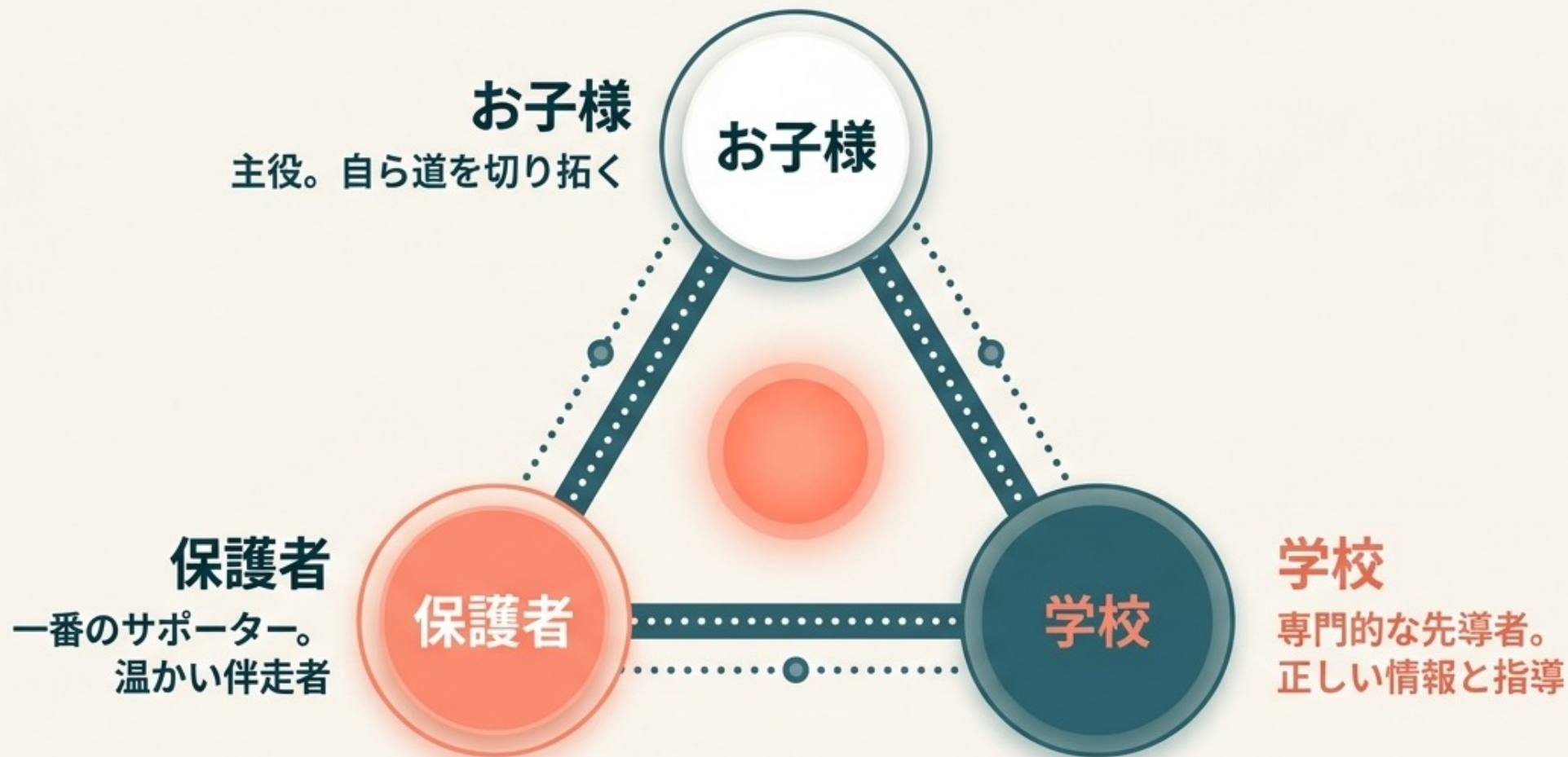
「合格してから動く」では間に合いません。保護者のスケジュール管理が、受験生の安心を生み出します。

保護者の皆さまへお願いしたいこと

お子様の最高の 「伴走者」になるために

大学受験を乗り切る4つの柱と
コミュニケーション術

受験は「個人戦」ではなく「団体戦」です



すべてを学校任せにせず、保護者も「正しい情報」を共有し、一体となって取り組むことが合格への第一歩です。

柱①：情報とスケジュールの把握

学校や大学は、締切間近になってもリマインドしてくれません。

出願スケジュールの把握

様々な出願締切や受験種別（推薦、一般など）を正確に把握する。

無理のない受験計画

試験日、試験会場、受験費用を総合的に考慮し、体力・精神的にも現実的なスケジュールを組み立てる。

入学手続きの期限厳守

【最重要】合格後、入学手続き等は必ず期限内に。ここを逃すとすべてが無効になります。

柱②：お金の話は「むしろすべき」

進学は無料で行けるものではありません。
家庭の金銭的事情も包み隠さず話しましょう。



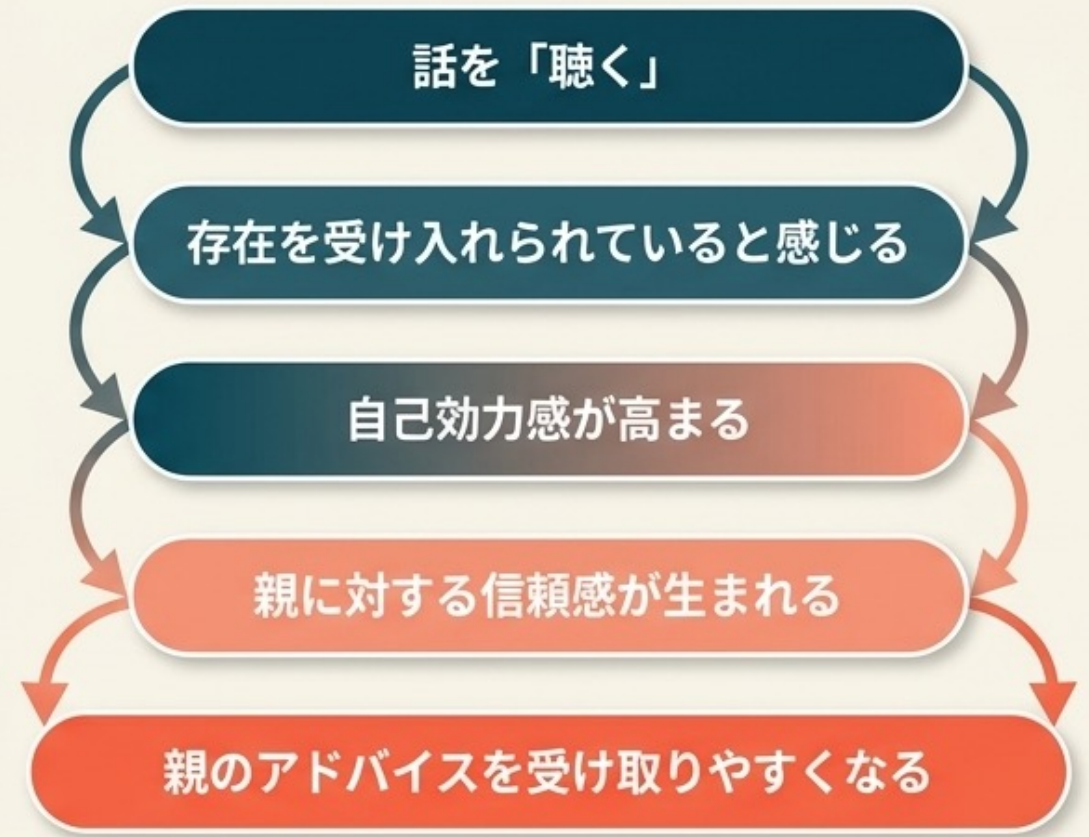
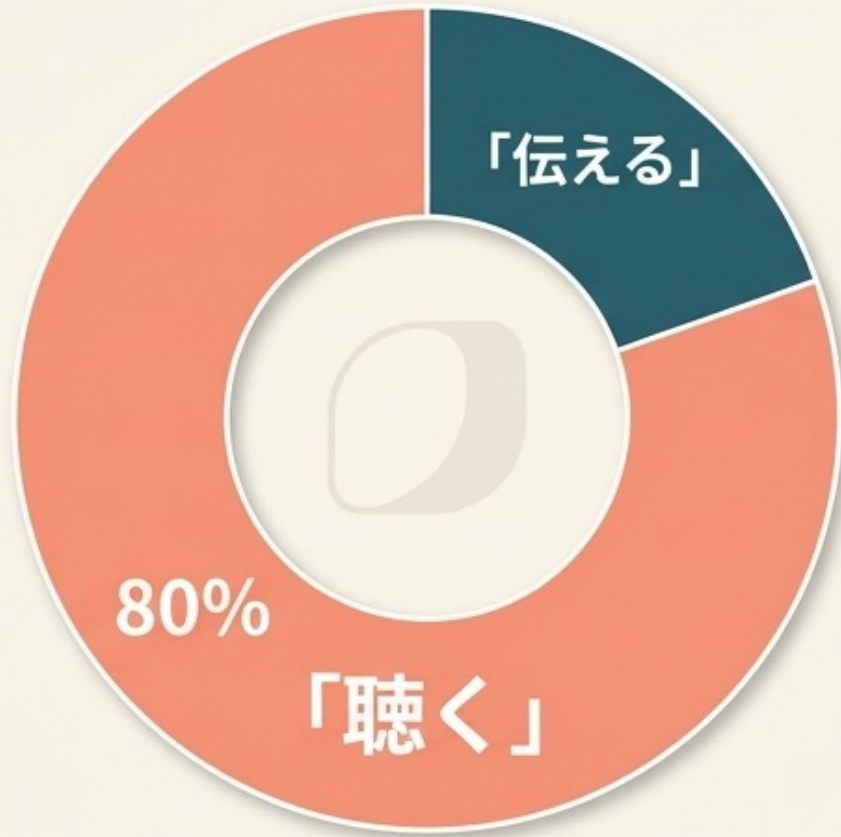
親の大変さを共有する

どこまでサポートできるのか、何ができるのかを明確に伝えることで、お子様にも当事者意識が芽生えます。

奨学金の「現実」を確認する

経済的に難しい場合は奨学金制度を活用。ただし、貸与型の場合は「長年にわたり本人が返す覚悟があるか」を必ず事前に確認してください。

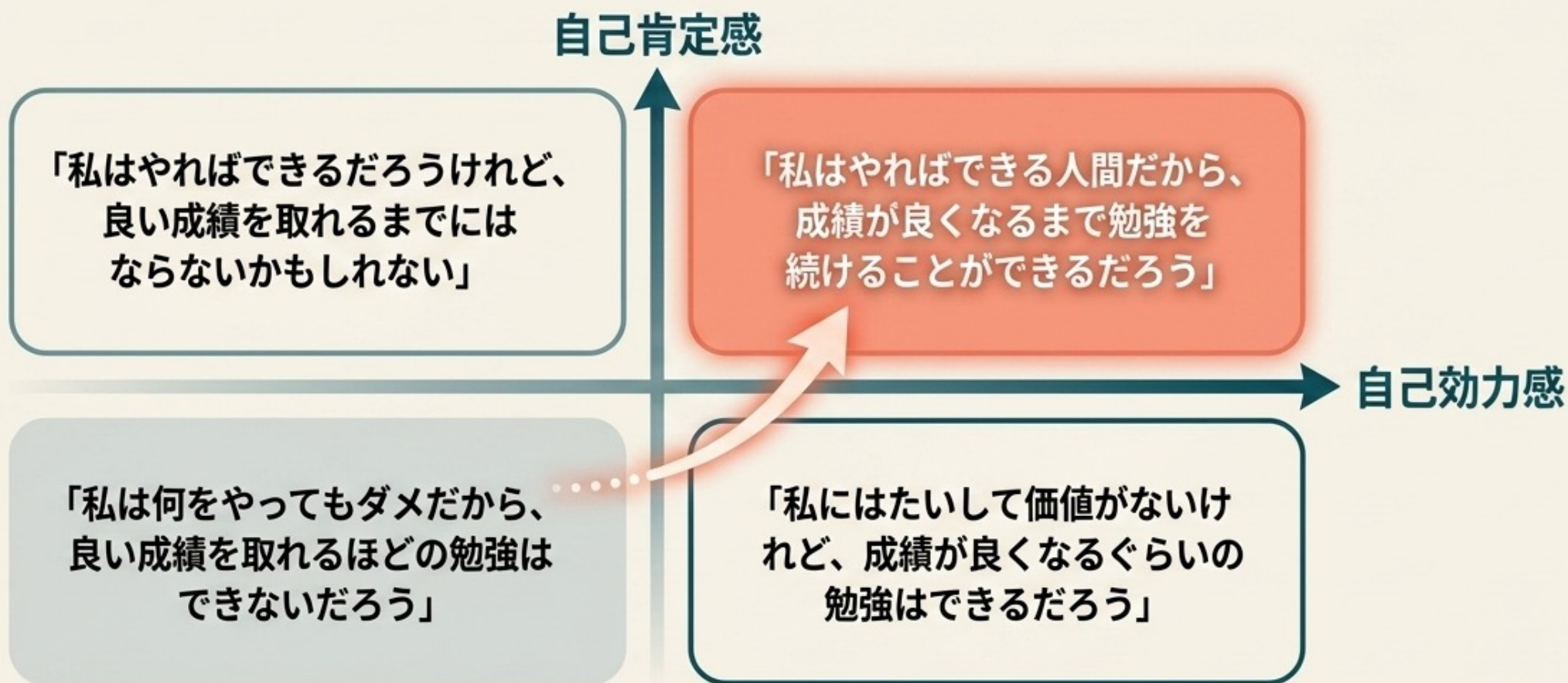
柱③：コミュニケーションの黄金比



話を伝えるためにも、まずは話を聴いてあげてください。

The Co-Runner's Compass

深掘り：お子様の心理状態を見極める



否定せず「聴く」ことで、お子様を右上の状態へ導きましょう。

柱④：健全な距離感と「自己決定」

親が主導で大学を決めてはいけません。



- ✓ 生徒の意思、やりたいこと、夢、目標を第一に尊重する。
- ✓ 自分のやりたいことに直結した大学選びを行う。
- ✓ 国立・私立、文理問わず、選択肢の幅を狭めない。
- ✓ 安易な方に走らない（勉強が間に合わないからと途中から推薦希望にするなど）。
- ✓ 「親が言ったから」「先生が言ったから」という言い訳をさせない。

いつまでも親はそばにいることはできません。
自分で選択できる強さを身につけさせてください。

言葉の羅針盤：かけるべき言葉、避けるべき言葉



避けるべきアプローチ

- **否定的な言葉**：「脳にストッパーがかかってしまい、そこからの成長を望めません。」
- **根拠のない楽観論**：根拠無く過大評価して励まますのは逆効果になることも。
- **結果のみを問う**：「なぜできないの？」と原因だけを追求する。



心を支えるアプローチ

- **お子様の気持ちを優先**：まずは話をよく聴き、共感する。
- **プロセスを認める**：「頑張っているけど結果がでないのは不安だけれど、努力は必ず結果に表れるよ。」
- **前向きに背中を押す**：ポジティブな視点を提供する。

先輩たちの声：本当に支えになった「親の行動」

無条件の愛

『志望校に受かって落ちても、あなたを思う気持ちに変わりはないのよ』
→ プレッシャーが消え、心から合格しようと思えた。

プロセスの称賛

『いつも本当によく頑張ってるね』
→ 「あ、この調子で良いんだ！」と安心できた。

日常のサポート

普段何も言わない父が試験前日にクリームシチューを作ってくれた。
勇気づけられた。

信じて見守る

受験当日まで何も言わず思うようにさせてくれた。
合格通知で母が号泣し、深い愛情を感じた。

最高のチームになるための「役割分担」

教育機関の 役割

生徒の伴走者となり
自ら求める心を引き出す

専門的な学習指導、
データに基づいた進路指導。

父母の役割

生徒の成長を
温かく見守り応援する

ご父母の皆様には「ほめる＝称賛」を
お願い致します。自ら取り組む心を育むのは、
家庭での温かい承認です。

さらなる情報とサポートのために



東進ドットコム「親のための大学受験サイト」では、保護者の皆様の疑問や不安に答える様々なコンテンツをご用意しています。ぜひご活用ください。



<https://www.toshin.com/oya/>

お子様の無限の可能性を信じ、最高の「伴走者」として共に走り抜けましょう。

お子様の能力は無限大
過少評価せず見守ってください

学校の授業を大切にしてください